



JICA いちおし 7月号

(2019年7月5日発行)



* 国名にはリンクを張っております。あわせてご確認ください。

カリブ地域における電力分野の協力

日本が取り組む地球規模課題の一つ、島しょ国ならではの脆弱性。真っ先に連想されるのは、毎年この時期に襲い掛かり、時として甚大な被害をもたらすハリケーンですが、電力の安定供給も重要な課題の一つです。カリブ地域の島しょ国は、発電の多くを輸入化石燃料に依存しており、原油価格や為替変動によるコスト増が財政負担を増大させます。そのほかにも既述のハリケーンなどの自然災害が電力インフラへの物理的被害をもたらす可能性も大きく、さらには地域の政治経済情勢も電力供給のための燃料備蓄を不安定化させる要因となり得、エネルギー安全保障の観点から脆弱性が高い状態にあります。そうしたことから、各国では、化石燃料に頼らずエネルギー自給率を向上させるための手段として、太陽光や風力など自然環境を利用した再生可能エネルギーの導入が、積極的に進められています。例として、セントクリストファー・ネービスとバルバドスはそれぞれ 2020 年、2030 年までに 100%、ジャマイカは 2030 年までに 50%の電力を再生可能エネルギーに切り替えることを目標に掲げています。

JICA ではカリブ地域における「カリコム省エネルギー推進プロジェクト(広域)」を実施しています。3 年間の技術協力プロジェクトで、日本人専門家と対象国の実施機関が協働で行う調査、計画策定活動や日本/現地での研修実施等を通じ、再生可能エネルギーの導入及び省エネルギー推進のための人材育成、組織能力向上を目指します。

プロジェクトは、2019 年 5 月のベースライン調査から始まりました。同調査で日本人専門家チームがバルバドス、セントクリストファー・ネービス、ジャマイカの 3 か国においてカウンターパートとなる各国の関係省庁とプロジェクトチームを構築、今後は、同ベースライン調査での議論をもとに具体的な活動計画を策定し、本年 10 月の各国合同調整委員会(JCC)での承認を経て、計画を実行していく予定です。プロジェクトは 3 か国で開始されますが、活動の成果は成功事例だけでなく課題も含めて、カリブ共同体(CARICOM)¹ 事務局や地域での発表を通じて、カリブ地域に共有し、プロジェクトの成果を広めて地域全体の能力強化に貢献していく計画です。

バルバドス、セントクリストファー・ネービスは ODA 卒業国ですが、日本は「小島しょ国特有の脆弱性」に配慮した協力を継続する方針を打ち出しています。持続可能な経済成長のために必要とされる電力分野において、日本が築いてきた省エネの知見と、日々進歩を続ける再生可能エネルギーの技術をもって、プロジェクト目標である再生可能エネルギー導入と省エネルギー促進のための人づくり組織づくりを支援していきます。

次ページにつづく

1/2

¹ カリブの 14 か国 1 地域が加盟しており、域内の経済統合を目指すとともに、加盟国間の外交政策の調整、共通のサービス事業実施、社会的・文化的・技術的発展のための協力等を行っています。



ベースライン調査で赴いた太陽光発電所（ジャマイカ、マンチェスター教区）



ジャマイカでの現地視察風景(ジャマイカ、マンチェスター教区)



バルバドスでの協議

地域の宝物！エクアドル北部地域の産品紹介

2019年1月にエクアドル北部国境地域を対象に、コロンビアの支援を受け「一村一品運動」セミナーが実施されました。セミナーでは北部国境県の参加者達が地域の「宝物」を再確認しました。この度北部国境地域のとても素敵な産品が JICA エクアドル事務所に共有されましたので、いくつかを皆さまにも紹介します。



カルチ県アンデス高地のわら細工



インバブラ県スレタ地区・エスペランサ地区刺繍製品

エクアドル事務所の情報はこちらから↓

<https://www.jica.go.jp/ecuador/>

<https://www.facebook.com/JICA-Ecuador-1449678225354548/>

次ページにつづく

いちおし!



カルチ県ミラ市地酒
“タルドン・ミレーニョ”



スクンピオス県アロマオイル
“デ・シトロネラ(DE CITRONERA)”



スクンピオス県フレーバーカカオペースト
“アグロエコカフェ(AGROECOCAFÉ)”



スクンピオス県コーヒー
“カフェ・アイレ・ユコ(CAFÉ AIRE YUCO)”

エクアドル事務所の情報はこちらから↓

<https://www.jica.go.jp/ecuador/>

<https://www.facebook.com/JICA-Ecuador-1449678225354548/>

信頼できる警察官を育成するまでの道のり
～中米グアテマラでの成果～

日本式「地域警察」がブラジルからグアテマラに逆輸入されて3年が経過します。プロジェクト成果が問われる大事な時期に差し掛かりましたが、サンパウロ警察のこれまでの協力とグアテマラ警察のやる気がプラスの化学反応を起こし、警察官自身に行動変容が見られ、業務内容も対決型重視から犯罪を未然に防ぐための防犯型にシフトしてきました。もちろん、地域の安全を守る主要アクターである住民への歩み寄りを何より大切にし、現場では信頼される警察官が数多く育ってきています。



住民に対して笑顔を見せなかった警察官、警察を怖がって警察署に近づくことになかった市民が、集会の場で意見交換をし、子供たちが気軽に警察署に立ち寄って次の交流イベントはいつかと聞きに来るようになりました。一部の地域では治安が大幅に改善された他、警察官の日々の業務や住民に対する真摯な態度が以下の住民意識調査では高く評価されました。

【住民意識調査結果】

2017年7月のベースライン調査に引き続き、1年半後の2019年2月にパイロット地域の住民1,058名を対象に地域の治安や警察のイメージを調査するアンケートを実施。多くの項目で大幅な改善が見られた。

体感治安

「良い」「大変良い」と回答した%



地域でのPNCのプレゼンス

「高い」「大変高い」と回答した%



被害届を出した際の対応

「良い」「大変良い」と回答した%



PNCに対する信頼

「ある」「高い」と回答した%



このような成果を共有する目的で、これまでプロジェクトに携わった住民リーダー、警察官、NGO や民間企業、市役所関係者、ブラジル人約200名を対象に7月26日にプロジェクト終了イベントを開催予定です。

ブラジル

いちおし!

フジタ・ニノミヤチェア創設記念式典(7月23日)のお知らせ!!

この度、MUFG バンク(ブラジル)は中南米進出 100 周年に伴い、サンパウロ大学(USP)と JICA が共同で実施する「日本開発研究プログラム(フジタ・ニノミヤチェア)」に対する寄附を表明されました。これを受け JICA は、三毛 MUFG 頭取の来伯に合わせ、下記の通り MUFG との共催式典を実施致します。

記

日時:2019 年 7 月 23 日(火)16:30~18:10
(式典後、同会場内レストランにてカクテル、終了予定 19:00)
場所:ジャパン・ハウス
共催:MUFG、JICA、SP 総領事館(申請中)、協力:USP

本プログラムは日本政府が推進する「明治 150 年」関連施策の一つとして発足した「JICA 開発大学院連携」をブラジル国サンパウロ大学に展開するものです。JICA 開発大学院連携については、2018 年 6 月 11 日に開催された第 24 回国際交流会議「アジアの未来」晩さん会での安倍総理のスピーチにおいて、約 5 分のスピーチのうち 2 分間に亘って話されました。(詳細はリンクご参照)

https://www.kantei.go.jp/jp/98_abe/statement/2018/0611speech.html

https://www.jica.go.jp/press/2018/20180614_01.html

今年新たに創設したフジタ・ニノミヤチェアは、日系人初の外交官である故藤田エジモンド氏、長年日伯の関係強化にご尽力されてきた二宮正人氏の功績を記念して、ブラジルの将来を担う学生や社会人の皆様に日本について学ぶ機会を提供し、ブラジルひいては中南米の未来と発展を支えるリーダーとなる人材を育てていくことを目的としています。

[表紙へ](#)

以上